

所長の部屋



所長のひとことアドバイス

大腸癌の精密検査

[2017年3月]

今回は大腸の精密検査について説明します。検査は胃の場合と似ていて、バリウムを使うX線検査と、内視鏡を使う検査があります。胃の場合と同様、最近ではほとんどの人が内視鏡を選びます。内視鏡の方がずっと病変を発見しやすく、同時に生検という顕微鏡検査も出来て、小さな病変ならばその場での切除も可能だからです。

大腸内視鏡検査を受ける人は、病院や医院で日時を予約します。検査前日には検査食を食べます。前日の夜に下剤を服用すると、夜中や翌朝に排便があります。検査当日の朝に医療機関に行き、水薬を飲みます。以前は3Lも飲む必要があったのですが、現在では1.5L程度、便秘のひどい方でも2L余りです。2から3時間でこれを服用すると、数回排便があり、最後は飲んだ液がそのまま出て、腸の中から固形便がなくなります。下着を汚すのが心配な方は紙パンツを用意しましょう。腸が綺麗になった方から検査が始まります。

検査は通常30分から40分程度です。最初の10分ほどは、腸のカーブが多い所を内視鏡が通過するので、下痢時のような下腹部痛が出るがありますが、世間で行われている程の痛みではないと思います。下腹部に手術をしている方は痛みが強いこともあります。検査の後半はほとんど痛みません。

小さなポリープはその場で切除してくれる医療機関が多くなりました。私は今までに、この検査で大腸癌を見つけてもらい、命拾いをした患者さんを数多く見てきました。検便が陽性の方、腹部症状のある方は、医師の指示に従って大腸検査を受けて下さい。